

| | | | |
|---|-----------------------|----|------|
| 研究課題 (テーマ) | テクニカルイングリッシュ・リメディアル講座 | | |
| 研究者 | 所属学科等 | 職 | 氏名 |
| 代表者 | | | |
| 九里徳泰 | 環境工学科 | 教授 | 九里徳泰 |
| 研究結果の概要 | | | |
| <p>環境工学科が開設 4 年を終えて、2 年次の技術英語はおおよそ全ての学生が受講する重要な講義であることがわかった。これは、学生のグローバル化への認識の向上とそれに対する工学技術現場での英語能力の獲得の意思の表れでもある。しかし、一部の学生では環境工学における英語分野での運用が、様々な理由で困っている状況である。</p> <p>本プログラムは、学部生と大学院生を対象として環境工学技術を中心とした英語に関するリメディアル教育を学部講師と本学教員が講義外の時間を用い、少人数できめ細かく実施し、環境工学における英語運用能力を高めることを目的とする。</p> <p>実施内容：</p> <p>主に、技術英語担当の半井典子先生（福井大学兼任講師）に担当願った。</p> <p>学生からの要望に沿い 90 分の講義において、英語運用能力増強、TOEIC 等対策を行った。毎回課題として、TOEIC 対策本の語彙暗記、最新の英文記事（学生からの要望に基づき、朝日、読売新聞等から抜粋した福島原発事故、スポーツ関連記事、国連環境計画の出版物からの抜粋等）を課題として事前に読んでもらい、授業に臨んでもらった。毎回 What's new today? として、スピーチ（各人 1 分から 5 分を目安）をパブリックスピーチの準備として行った。英文記事の読解において筆者の意図、話の流れを汲みとりながらすばやく読む練習とともに、難解な部分も方向性を読み間違えない練習を行った。TOEIC 対策へ要望が一部あったため、公式問題集と対策本を用いて、各パートの対策を紹介し、演習を行うと同時に、実際に時間を図りスピードを意識した実践練習を行った。</p> <p>実施時期：10月4日～2月7日 7～10 時限 実施人数（学部、院）： 7～8 時限 6 名（環境工学科、大学院環境工学専攻）9～10 時限 1 名（環境工学科）</p> <p>実施結果：</p> <p>語彙暗記は、実施時期後半は要領をえて、しっかり暗記ができていた。英文記事の読解は難解な部分を除き、方向性が把握できるようになった。スピーキングは回を重ねるにつれ、積極的になり、苦痛と思う様子はなく楽しいものとなった。自信がついてきたように思える。一部学生から要望のあった TOEIC に関して講義とテスト実施スケジュールにより、講義実施時期にテスト結果を得ることはできなかったものの、語彙増強、文法事項の確認の重要性、リーディング、リスニングの慣れの必要性に学生が気づいたことは大きな収穫である。受講生の大学院生が、海外での国際学会での発表を希望しており、すでに発表登録を行っている。</p> | | | |
| 今後の展開 | | | |
| 講師が退職した為継続しないことになった。 | | | |